

報

告

九月十一日ヨリ
全 二十日ヨリ

大本營參謀部

御中

臺灣總督府參謀

九月十一日先ニ近衛師團ヨリ他里霧方向ニ派遣
セシ搜索隊(歩兵一大隊ト騎兵大隊)ハ昨日斗
六門ト刺桐港間ニ在ル數流ノ河川増水ノ為メ
帰還スルニ能ハズ途中屢シ五六百人ノ敵兵ニ襲撃セ
ラレタレタ何レモ是レヲ撃退シタリ彰化ヨリハ收容ノ為メ
ニ歩兵二中隊ト砲兵一小隊ヲ差遣シタリシモ川
ノ左岸ニ渡ルニ能ハザリシ
敵ノ大部ハ嘉義ヲ根據ト爲シ其一部ハ土匪ト結
合シテ他里霧附近ニ散在スルカ如シ

0487

偵察ノ報告ニ依ルハ刺桐港以北及び海岸通り番
控街以北ハ平穩ナリ
河川漲溢ノ為ノ一時糧秣ノ運搬ヲ杜絶セラレタリ
ト虽モ地方物資ニ依ルヲ得タルヲ以テ差程ノ困
難ヲ感セサリシ
糧秣ヲ積載セル支那船ハ過ル九日ヨリ鹿港ニ
入港陸揚ヲ始メタリ
高嶋副總督本日午後六時台北ニ着セラル
九月十二日十三日斗六門附近ノ土人ハ支那兵襲
来ノ風説ヲナシ家財ヲ燬メテ逃避スル者多シ
近衛師團軍醫部長ノ報告ニヨレバ目下入院患者
五百余人外來患者八百余人其他各隊ニ在ル分々
ト毎日三四十人先後送スルヲ得ト

澎湖島ヨリノ報告ニヨリハ臼砲中隊ハ八月三十日及三十
一日ヲ以テ澎湖ニ上陸セリ然ルニ既ニ航海中ヨリ急性
腸加答見及虎列刺病ヲ發生シ其九月十一日ニ至ル迄ニ
左ノ患者ヲ生セリ

虎列刺死亡者

内入院治療中ノ者

其他傳染性患者

兵卒	三	二
軍夫	三	九
兵卒	四	一
軍夫	九	一
兵卒	五	一
軍夫	三	八

九月十四日 近衛師團參謀長報告ノ大要左ノ如シ

一、敵ハ我軍ノ中止セルヲ見テ大ニ氣焰ヲ張カ如

二、彰化滞在以來熱病患者非常ニ増加シ

健全ナル者十中隊中平均五名ニ過ギス

三、内灣東方高地ニ敵兵約五百アリ歩兵二中

隊砲兵一小隊ヲ差遣セリ

九月十六日 近衛師團第二師團及臼砲中隊ヲ以テ南
進軍ヲ編成シ 副總督子爵高嶋鞆之助ヲ以テ
之ヲ指揮セシム

午后近衛師團ヨリ報アリ(間諜ノ報)曰ク他里霧ニハ
土匪アリ雲林ニハ土匪及黑旗兵一千大埔林ニハ
土匪二千人アリト

往キニ他里霧ニ向ニ派遣セシ部隊ハ敵龍溪ヲ逆撃
シ其一百余名ヲ斃シニ鹿港溪ノ右岸ニ引揚ケ
タリ

近衛師團ハ駐營間鹿港溪ノ右岸ヲ以テ其防
禦線ト定メ之ニ前哨ヲ配置セリ

彰化附近ニアル近衛師團ニハ「マラリヤ」熱流行シ

病勢稍猖獗衛生員ハ非常ニ多忙ナリ又天候不良
患者後送困難ナルヲ以テ病院ハ充満ニアリ

十七日南進軍司令官ハ近衛師團及ビ新ニ編成スル
混成第四旅團ヲ以テ北部嘉義布袋嘴ヨリ第二師
團ヲ以テ枋寮附近ヨリ各々台南ニ向ヒ前進セシメ三
面ヨリ全地附近ニ集合シアル敵ノ首カヲ包圍撃破スベキヲ
以テ南部新作戰ノ目的トシテ決定セリ

近衛師團健康者ノ平均人員概々左ノ如シ

歩兵第一聯隊第一大隊ノ中隊ハ 八九十名

全 第二大隊ノ中隊ハ 百五十名

歩兵第二聯隊ノ中隊ハ 百五十名

歩兵第三聯隊第一大隊ノ中隊ハ 七八十名

全 第二大隊ノ中隊ハ 百五十名

歩兵第四聯隊第一大隊ノ中隊ハ

百名

全

第二大隊ハ

百五十名

十八日歩兵第十七聯隊ヨリ出セル澎湖島守備歩兵ハ
雨後全島守備ノ事ニ限リ澎湖島要塞守備
砲兵隊長ノ指揮下ニ入ラシム

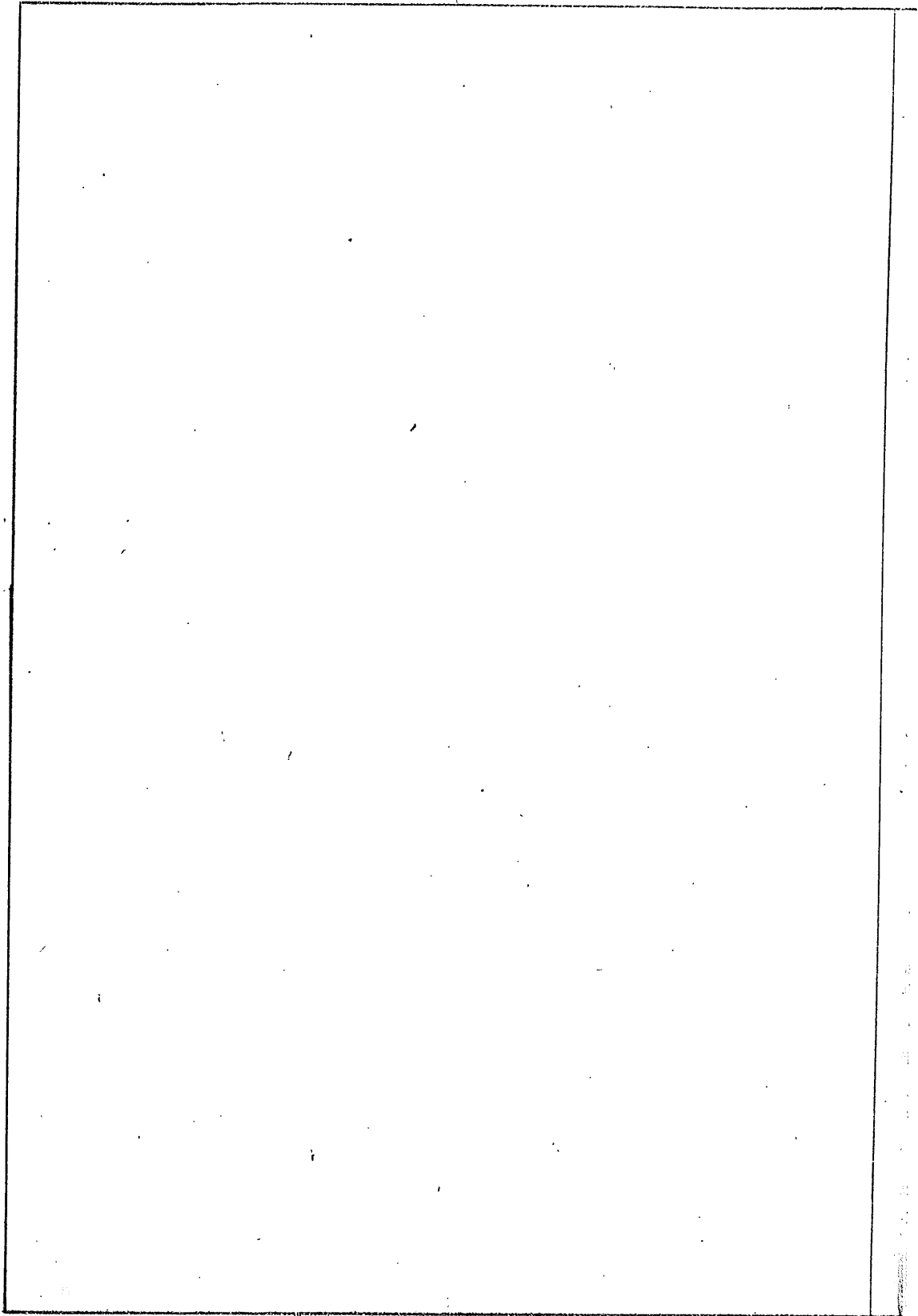
十九日本日水害ノ為メ電線屢々不通トナレリ彰
化地方ハ北風強ク降雨甚タシ
内灣及ヒ北斗附近ノ人民ハ漸次帰宅スル模様ナ
リ

廿日茄芦墩守備隊ヨリ報アリ曰ク大甲河ハ降雨
ノ為メ漲溢シ數日間通過スルコトヲ得ス依テ全
守備隊ノ糧食ハ牛馬頭兵站司令部ヨリ或ハ地方
購求ヲ以テ補給セリ但馬糧醬油類ハ不足ナリ

0432

河水ヲ飲料ニ供スルモ雨後ハ明礮ヲ用ヒガレバ用
ユ可カラズ又内山ノ東勢角ニ出セシ偵察隊ハ土
民ノ歡迎ヲ受ケタリト
輕便鉄道班ヲ自今南進軍ニ附属ス

0433



0494